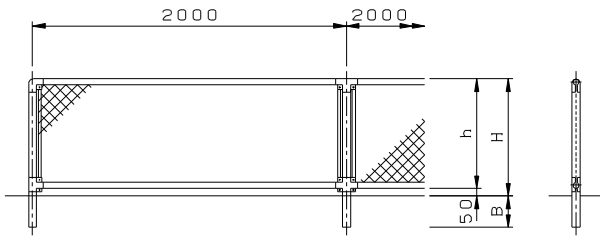


# PCフェンス A750～A3000 施工要領書

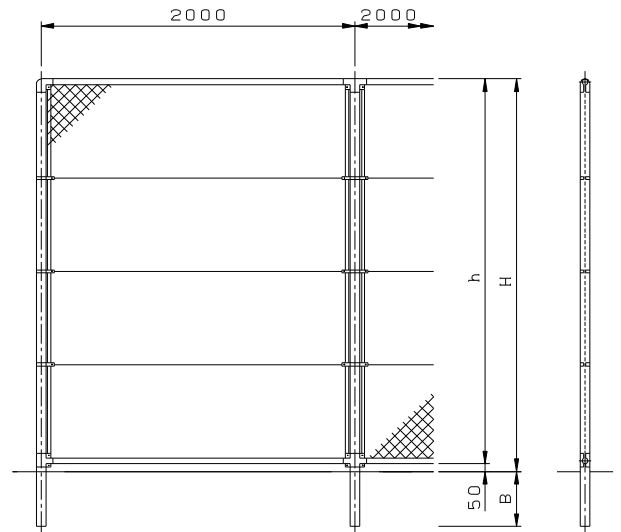
●製品は直接地面に置かないで敷物を施すこと。

フェンス呼称・寸法

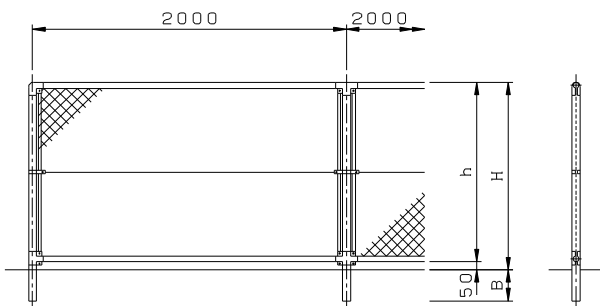
PC-A750



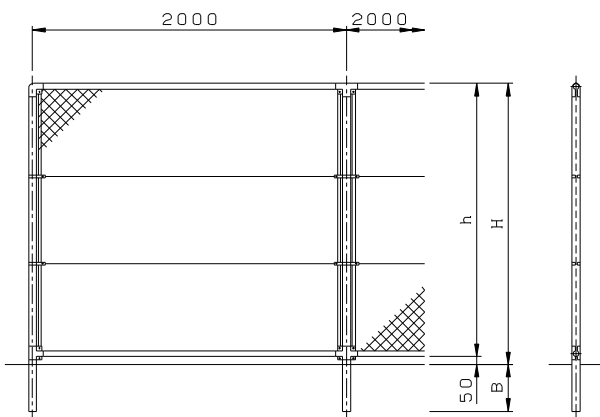
PC-A2500, 3000



PC-A800, 1000, 1100, 1200, 1350, 1500



PC-A1800, 2000, 2100



呼称	高さ (mm)		支柱 (mm)	
	(H)	(h)	規格	埋込 (B)
A750	750	700	φ50.8×1.6	200
A800	800	750	"	"
A900	900	850	"	"
A1000	1000	950	"	"
A1100	1100	1050	"	"
A1200	1200	1150	"	"
A1350	1350	1300	"	250
A1500	1500	1450	φ50.8×2.3	"
A1800	1800	1750	"	300
A2000	2000	1950	"	"
A2100	2100	2050	"	"
A2500	2515	2465	φ60.5×2.3	350
A3000	3000	2950	φ60.5×3.2	"

## 取付け作業工程

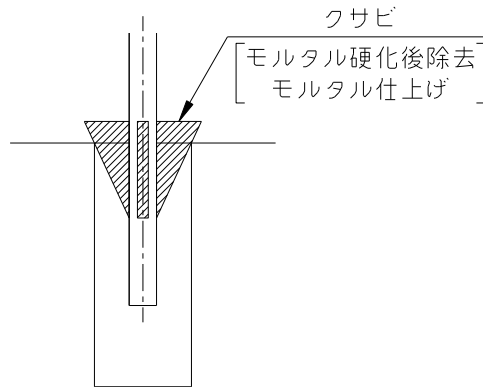
基礎確認 → 柱建込み → 網組み → 網取付け → 中番線取付け → 点検

### 1. 基礎確認

- ・基礎天端レベルを確認する。
- ・柱穴のピッチは正確であること、2000 mmが標準です。配置平面図に基づき確認する。
- ・穴径×深さは、φ80～100 mm×埋込寸法 (B) 以上で設置されているか確認する。
- ・穴の通り、垂直にあいているかを確認する。
- ・不都合な箇所は、コア抜き等で修正する。

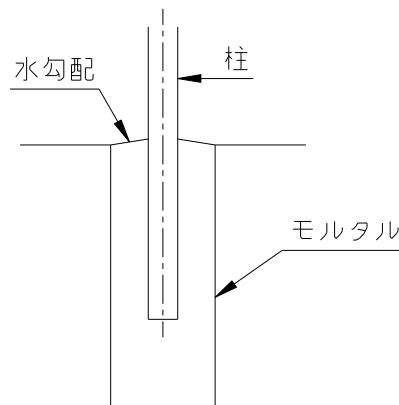
## 2. 柱建込み

- ・柱は高さ寸法（H）より 45 mm 低く建込む。（45 mm は上ジョイントにて加算）
- ・柱の高さ、通り、垂直度を調整後、モルタル充てんを行う。



### 柱建込み時の注意

- 基礎のスリーブは必ず取り除き、モルタルを充てんする。砂、空ねり等では柱の強度が保てません。
- 柱地際に水溜りができるとさびが発生しやすくなり、破損等による思わぬ事故につながる可能性があります。柱地際のモルタルを盛り上げて勾配をつけ、水はけをよくしてください。



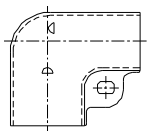
- 基礎の上に土を被ると柱にさびが発生しやすくなり、破損等による事故につながる可能性があります。土被りは清掃除去してください。
- 寒冷地で使用の場合、柱内部に溜まった雨水等が凍結して柱や基礎が破損する場合がありますので、水が抜けるようにしてください。

### 3. 使用部品・胴縁

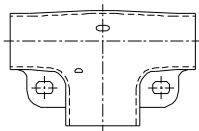
#### 3-1 使用部品

主柱φ50。8用

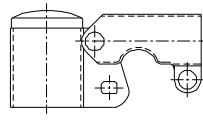
ジョイント 端末上 5 1



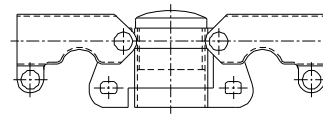
ジョイント 中間上 5 1



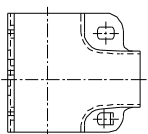
ジョイント 端末自在上 5 1



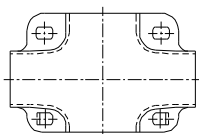
ジョイント 中間自在上 5 1



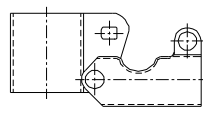
ジョイント 端末下 5 1 組式



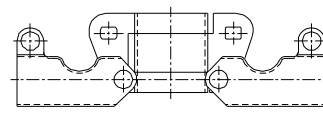
ジョイント 中間下 5 1



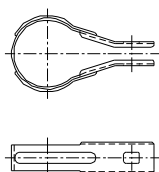
ジョイント 端末自在下 5 1



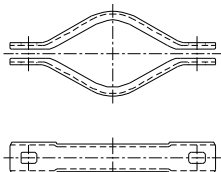
ジョイント 中間自在下 5 1



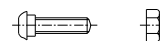
バンド 端末 5 1



バンド 中間 5 1

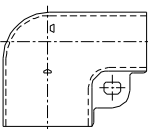


角根ボルト・ナット M8

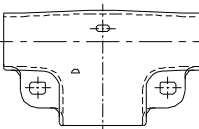


主柱φ60。5用

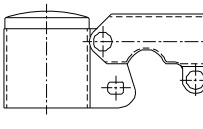
ジョイント 端末上 6 1



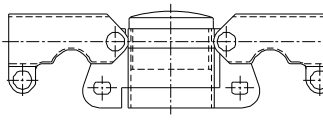
ジョイント 中間上 6 1



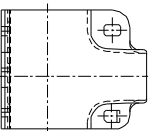
ジョイント 端末自在上 6 1



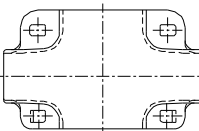
ジョイント 中間自在上 6 1



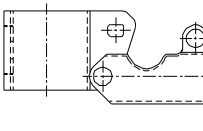
ジョイント 端末下 6 1 組式



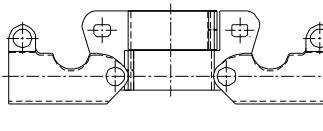
ジョイント 中間下 6 1



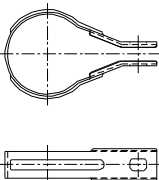
ジョイント 端末自在下 6 1 組式



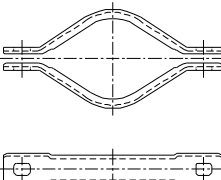
ジョイント 中間自在下 6 1 組式



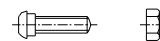
バンド 端末 6 1



バンド 中間 6 1



角根ボルト・ナット M8

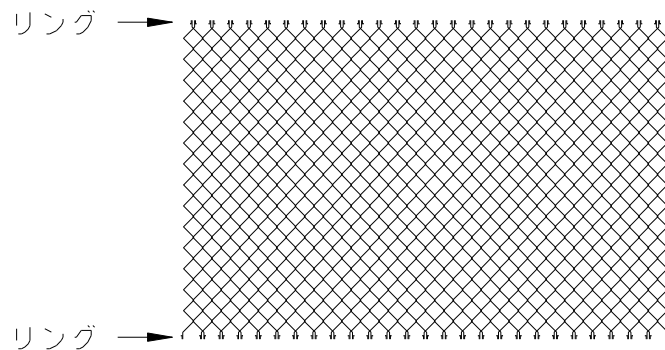




## 4. 網組み

### 4-1 金網調整

- 金網を広げて、上・下のリングをそろえる。この時、網目が外れていないか確認する。
- 金網を強くのばし、スパンの柱内々寸法より 5~10 mm程度短くなるように長さを調整する。



- 金網長さ調整用列線は、金網 1 枚につき 1 本同送していますので、金網の張り具合等により必要に応じて使用してください。

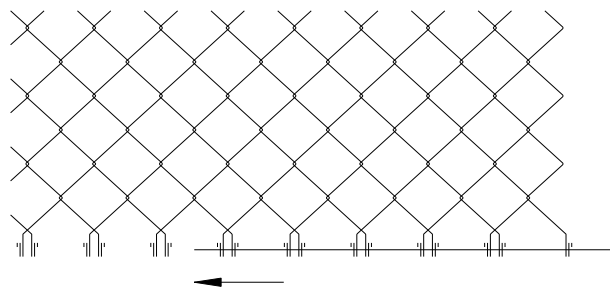
50 mm目、56 mm目の金網に同送している列線(調整列線)は、金網の列線に比べ折り返し幅が狭いので、金網の列線を 1 本抜いて代わりに調整列線を入れれば金網長さを少し短くすることができます。

40 mm目の金網に同送している列線は金網と同じ列線です。列線 1 本を抜くか足すかの調整になります。

- 勾配用金網の調整・繰出し手順については、9/10 頁「勾配金網の調整例」及び 10/10 頁「PCフェンス勾配繰出し手順」を参照ください。

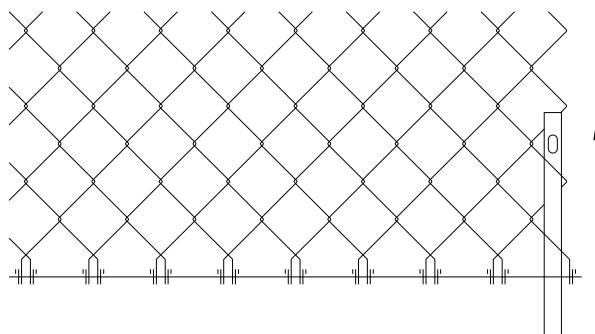
### 4-2 力骨線通し

- 上・下のリング内に力骨線φ2.6を通す。  
力骨線は片端を曲げてから通す。



### 4-3 網張り FB 通し

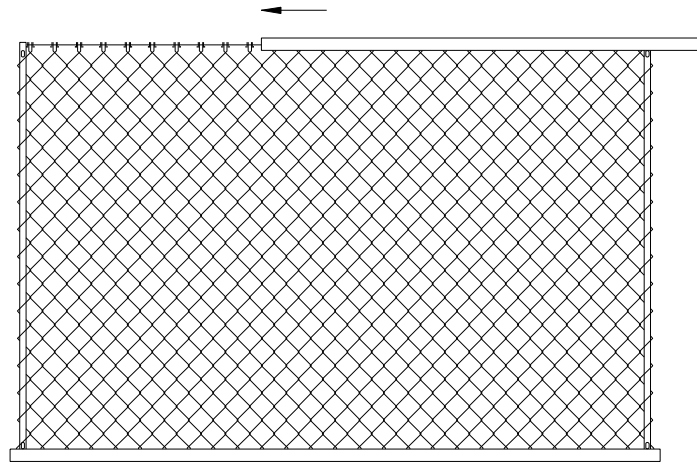
- 金網両端の網目内へ網張り FB を通す。



- 金網と網張り FB が外れないように仮結束しておく。(柱に取付ける際には仮結束を除ける)

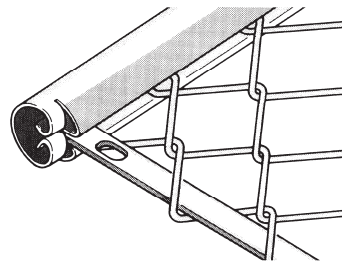
#### 4-4 胴縁組込み

- ・ 力骨線を曲げた側から金網の先端（リング部）へ胴縁を押し込む。  
水抜き穴のある胴縁と、水抜き穴のない胴縁が対になるように組み込みます。水抜き穴のある胴縁が下側です。



#### 4-5 離脱防止

- ・ 上胴縁の両端から約 15 mm のところに切込みがあるので、切込みをペンチで曲げ込み閉鎖する。



- ・ 離脱防止の切込みがあるのは、水平直線 2m スパン用上胴縁 1980 mm のみです。  
(自在ジョイント使用時には、離脱防止はつきません)

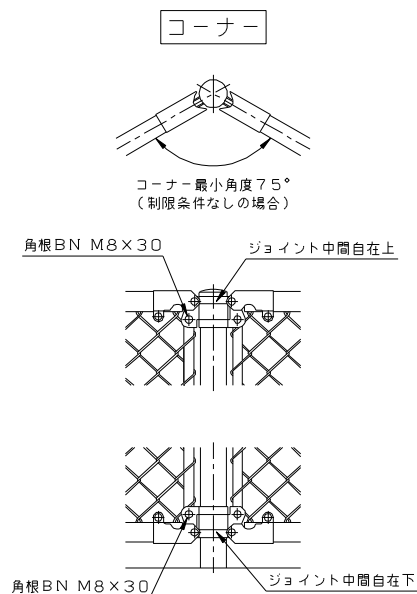
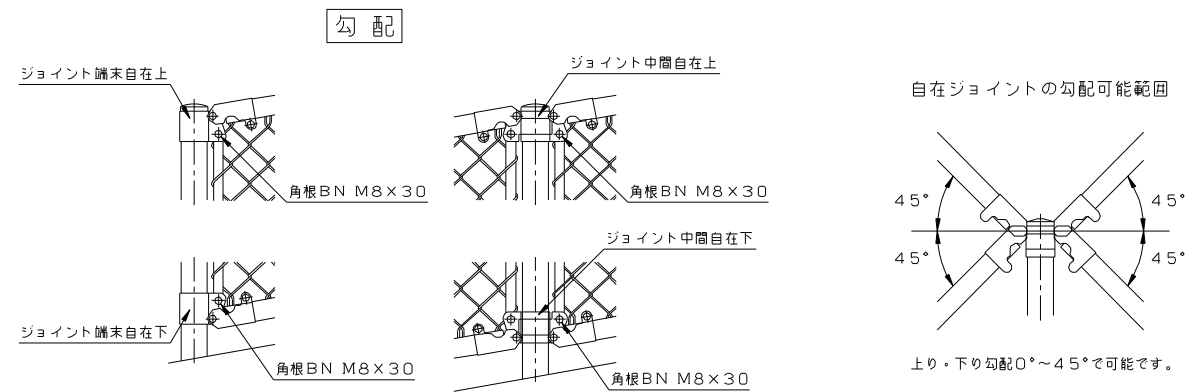
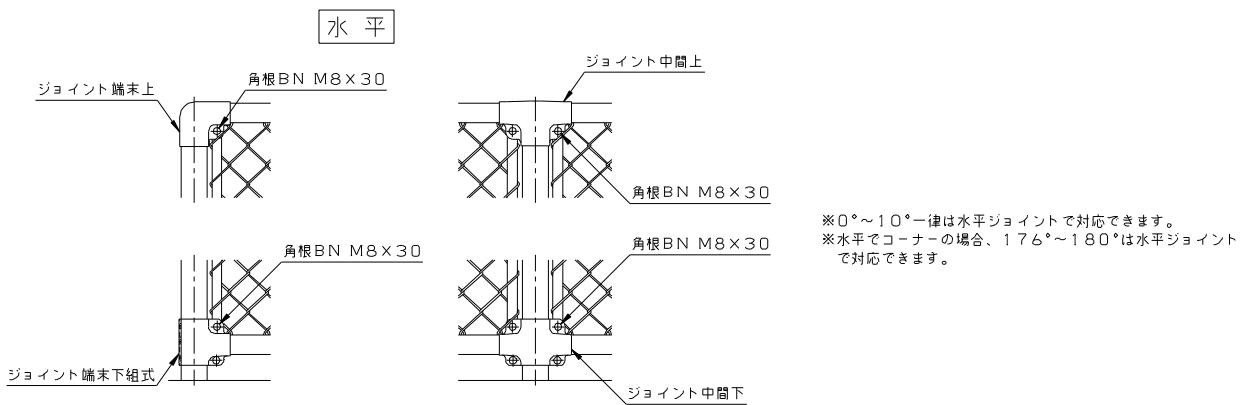
## 5. 網取付け

### 5-1 取付け手順

- ・ 施主と協議してボルト・ナットの向きを決定すること。  
(外構フェンスでは、通常ナットが用地側です)
- ・ ナット締付け工具は、対辺 13 mm が必要です。
- ・ ジョイントを柱に仮止めし、端末から順次網組みパネルを仮取付けする。
- ・ 仮取付けが終われば、高さ寸法・金網の張りを確認しボルト・ナットを本締めする。

### 5-2 取付け要領

(要領は、支柱  $\phi 50.8$ ,  $\phi 60.5$  共通です)

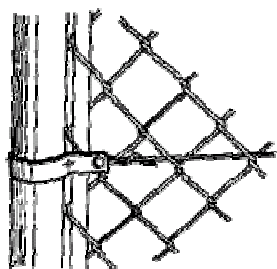


※自在ジョイントはコーナー角度 $60^{\circ}$ ~ $180^{\circ}$ で使用できますが、コーナー角度 $60^{\circ}$ ~ $75^{\circ}$ は角根ボルト頭をコーナー内側で取付けてください。

## 6. 中番線取付け (A800~A3000)

- ・中番線  $\phi$  4.0 巻物を等分所定位置の網目内に端部より通す。巻物の中番線は、張伸器等で伸ばして使用する。(勾配部では直線切りの中番線を使用する)
- ・柱の前後 1~1.5 目程度は網目内を通さず、外面を通し柱に沿わせる。
- ・中番線の両端末は仮止めし、後からバンドを締め付けた時、緊張する程度にしておく。  
(両端末は 20~30cm 残しておく)
- ・中番線通しが終われば中間柱の所は少し押込んで丸みをつけ、バンドを仮止めする。中番線の上を角根ボルトが通るように中間バンドではさみ込む。
- ・仮止めが終われば順次中間バンドの端部が密着する迄ボルト・ナットを本締めする。最後に端末のボルト・ナットを本締めし、中番線端末を折り返し最低 1 回半は巻付ける。

端末部 (コーナー部も同要領)



バンド端末は角根 BNM8×30 を使用

中間部



バンド中間は

主柱  $\phi$  50.8 は角根 BNM8×30 を使用

主柱  $\phi$  60.5 は角根 BNM8×35 を使用

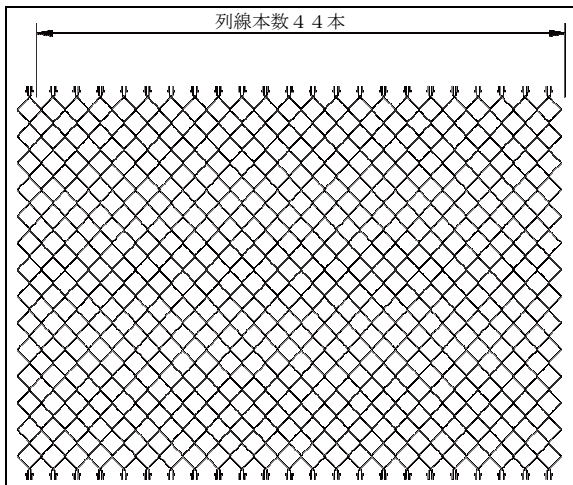
## 7. 点検

- ・ボルト・ナットの締め付けを点検する。

## 勾配金網の調整例

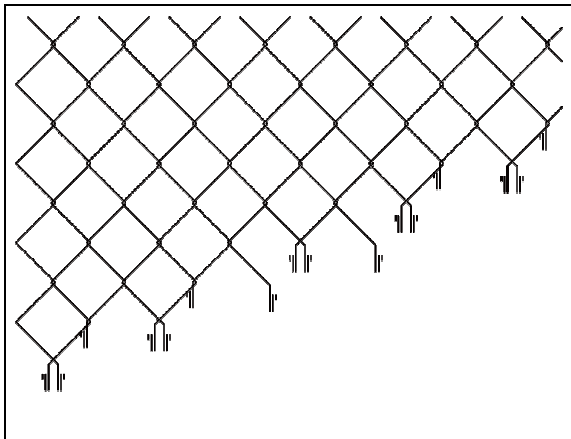
金網  $\phi 3.2 \times 56$  mm、勾配  $20^\circ$  の場合

### ① 金網を広げる



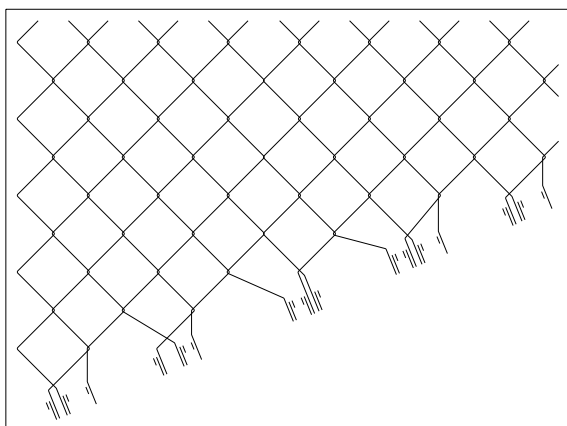
金網を広げ、列線本数を44本にする。  
( $\phi 3.2 \times 56$  mmの場合、列線を2本外す)

### ② 列線の繰出し



次頁「PCフェンス勾配繰出し手順」の表より金網  $\phi 3.2 \times 56$  mm、勾配  $20^\circ$  の場合、端からA欄記載の列線2本は繰出さずそのままにしておき、次にB欄記載の3本を繰出し、以後2本、3本、2本、3本・・・と順次繰出し、最後に2本繰出す。

### ③ リング部の調整



繰出しが終われば勾配に沿うようにリングの巻き加減、首の曲げ付けなど調整を行う。  
リング内に力骨線  $\phi 2.6$  を通す。

